

おともがわ

学校報 NO, 40

保護者版

平成28年 1月14日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

19日間の冬休み中に大きな事故・病気等の報告もなく、みんなが元気に後期後半のスタートを切ることができ、嬉しく思うとともに感謝申し上げます。今年も引き続きご支援・ご協力の程宜しくお願い致します。

平成28年 第52回 大曲仙北児童生徒新年書初め展

冬休み前に応募があった表題の書初め展には、硬筆の部に1・2年生全員が出品して、○○○○(2年)さんの特賞を筆頭に金賞・銀賞を受賞しました。毛筆は半紙と条幅の部があり、金賞以上の作品が冬休み中にイーストモールに展示されました(下記に記載しました)。今日の休み明け集会で賞状を伝達しました。

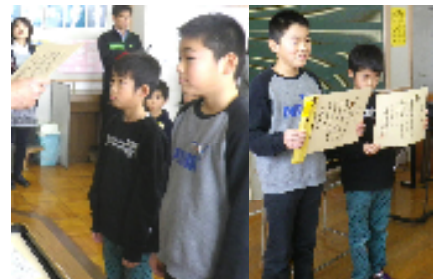
【条幅の部】

金賞 ○○○(3年), ○○○○○ ○○○○○(6年)

【半紙の部】

特選 ○○○○○(6年)

金賞 ○○○○ ○○○ ○○○○(3年),
○○○○(4年), ○○○○○ ○○○○○(5年)
○○○○○ ○○○○○ ○○○○○(6年)



~~~~~ 冬休み明け集会でこんな事をお話ししました ~~~~~

### ピンチとチャンス (白鵬)

明けましておめでとうございます。冬休み前集会で「元気に生活していくためにも昔の知恵を学んだり、新しい工夫をして寒さを乗り切ってほしい」「1年間の計画を立てて夢に向かえる冬休みにしてほしい」とお話ししましたが、どうでしたか。

ところで、皆さんは大相撲の横綱白鵬関を知っていますか。白鵬関は今から15年以上前の2000年10月25日に6人のモンゴル人と共に大相撲で活躍していた同じモンゴル出身の旭鷲山関を頼って来日しました。当時は15歳でした。他のモンゴル人がそれぞれ入門していく中で、身長175cm、体重68kgしかない小柄な白鵬を受け入れてくれる部屋は最後までありませんでした。このままではモンゴルに帰らなければならない絶体絶命のピンチです。その帰国の前日12月24日、彼をかわいそうに思った旭鷲山関が自らの師匠に相談し、宮城野部屋に入れてもらったのです。

こうして角界入り(力士)となったものの、小柄な体から大きな期待はされていなかったといいます。しかし、親方は少ない可能性にかけるため、入門してからの2ヶ月間は稽古をさせず、毎日吐くほどに食べさせ、牛乳を飲ませました。食文化の違いを苦にせず大食漢だった(なれない日本食でも好き嫌いなくたくさん食べた)ことと熱心な稽古(練習)によって大きく成長し続け、現在の白鵬関は身長192cm、体重155kgです。直径15尺(4m55cm)の土俵上で、巨漢同士(大きな相撲取り同士)がぶつかり合う大相撲では、瞬間瞬間で「ピンチとチャンス」が繰り返されます。そのピンチをチャンスに変えるのは、健康でしっかりした体と毎日の豊富な稽古(練習)量、ピンチをチャンスに変える精神力(諦めないという気持ち)だと思います。

大相撲を諦めて帰らざるを得なかった白鵬関が大横綱になって多くの新記録を達成しているように、皆さん一人一人にも無限の可能性が 있습니다。ピンチをチャンスに変える体力と精神力(最後まで諦めない気持ち)を持って、今年を過ごしましょう。

夢は逃げない 逃げるのは いつも自分だ。